

1. 概 要

○国は、令和8年2月13日に「高校教育改革に関する基本方針(グランドデザイン)～2040年に向けた「N-E.X.T.(ネクスト)ハイスクール構想」～」を公表、高校改革の方向性を提示。都道府県に対して改革を先導する拠点校の設定を求め、その取組みを支援

<背景>:「2040年問題」として、

- ①少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化の一層の深刻化、②労働力需給ギャップや産業界のニーズに応じた理系人材の不足、③「自ら問いを立てる力」「他者とともに価値を創り出す力」が評価される時代へ

○このため、県は改革先導拠点を選定し、同校における取組および施設整備計画の国庫を申請（申請日:5月14日、申請額:約62億円）
※採択発表:6月下旬頃

2. 改革先導拠点の取組内容

○国が定める類型ごとに改革先導拠点を創出し、「2040年を見据えた人材育成システムへ転換する高校教育改革」を目指す。
<協力校>県内全ての高校を関連する類型に位置づけ、取組みを波及【取組期間:令和8年度～10年度】

類型1 坂井高校(専門高校の機能強化・高度化)

(1)改革目標

地域産業をけん引するプロフェッショナル人材を輩出する教育モデルを創出
・デジタル技術と高付加価値を生み出す力を有する専門・技術人材、現場人材を育成

(2)主な整備内容 所要額 約34億円

- ①アドバンスト・テクノHUB(工業拠点)
・各コース(機械、自動車等)の設備導入 等
- ②スマートアグリ&バイオHUB(農業拠点)
・スマート農業設備の導入 等
- ③六次産業化HUB(商業拠点)
・製品の生産、加工、出荷等の衛生管理手法(HACCP)を学ぶ設備導入 等
- ④地域共創HUB(全分野・地域交流拠点)
・地域における連携・共創や実践的なビジネス体験等が可能な環境整備

類型2 敦賀高校(普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化)

(1)改革目標

「小中高大を通じた先進的な理数教育」と「地域産業への人材還流」を実現する新たな教育モデルを創出
・地域から変革を起こす科学・DXスキルを有する人材を育成

(2)主な整備内容 所要額 約18億円

- ①科学・DX研究センター
・定量的データを採取・分析する機器導入
・先端デジタル機器(データ活用)導入 等
- ②先進的な理科実験室(高度化)
・自然科学4分野の実験室を充実
・「講義」と「実験」が両方実施可能な環境整備
・授業や研究時の遠隔交流の通信機器導入 等

類型3 鯖江高校(地理的アクセス・多様な学びの確保)

(1)改革目標

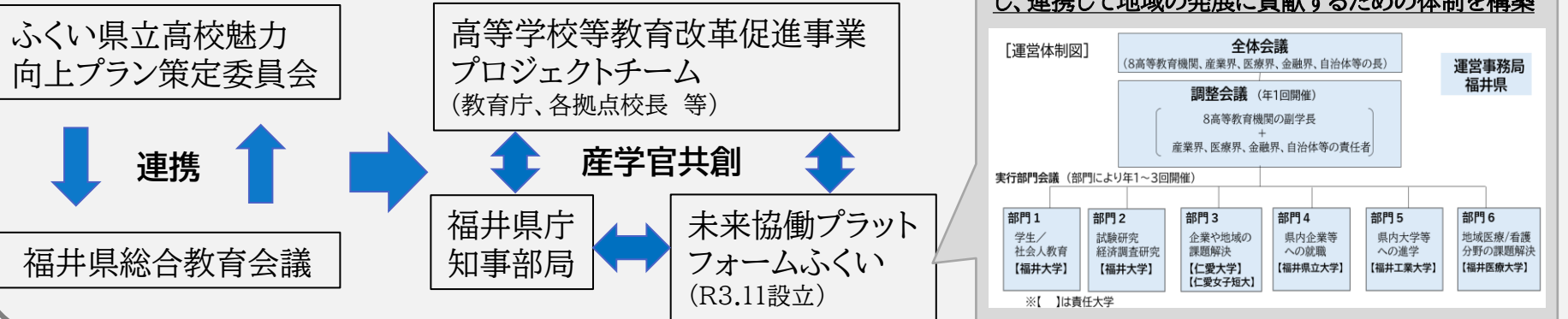
「遠隔教育」と「学校の枠を超えたりアルな学び」を組み合わせ、学校規模や地域差に左右されないハイブリッド型教育モデルを創出
・地域の在り方をデザインし、地域の産業の創出・維持を担える人材の育成

(2)主な整備内容 所要額 約10億円

- ①遠隔教育拠点(配信センター等)
・配信スタジオ、多目的遠隔実習室等の整備
・先端デジタル機器(デジタルものづくり)導入 等
- ②地域連携共創拠点
・地域における連携・共創が可能な環境整備
・地元進学学習講座等を実施する多目的な環境整備 等

推進体制と取組みの波及

産学官連携による全庁横断型推進体制



協働し取組む

協力校の選定

県内全ての高校を関連する類型に協力校として位置づけ、改革先導拠点の取組みを波及

<参考>

・本県はこれまでの再編整備により、福井県内の県立高校の数は全国で2番目に少ない

(参考)都道府県別の全日制県立高校数(令和6年度、少ない順)

鳥取22校、福井24校、山梨25校 ※北陸の他県:石川38校、富山34校

各類型における具体的な取組み I

類型1 坂井高校 (専門高校の機能強化・高度化)

取組1 高度専門実践プログラム

産業界が求める実践的・高度な専門知識と確かな技術の習得と、企業が直面する課題の解決力を育成

1 高度資格取得ブートキャンプ

- ・「産業実務家教員」や「テクニカル・スタッフ」の支援により、技術向上のための学習サイクルを実践【工業】

2 最先端技術の実装教育

- ・県内大学や県内宇宙関連専門機関等と連携し、宇宙産業を研修や課題研究で学び、協力校工業科生徒との協働授業を実施【工業】
- ・電気工事工業組合等の業界団体と連携を強化し、実践的な実習を実施【工業】
- ・スマート農業などの新たな学校設定科目を設置【農業】
- ・県内大学等と連携し、バイオ研究等の講座を実施し、協力校農業科生徒へも配信【農業】
- ・デジタル機器を活用し、デジタルでの衣服の設計、製作、フィッティング技術を学ぶ講座を実施し、協力校家庭学科とも連携した授業を展開【家庭】

3 六次産業化を見据えた社会実装型の学び

- ・県内企業や県関係機関等と連携し、他学科が生み出した農作物や製品を活用した販売戦略や起業の講座を実施し、協力校商業科へも配信【商業】

取組2 地域共創プロジェクト型学習

地域発イノベーション創出を目指し、学科・学校・企業・自治体等の枠を越えた教育活動による人材育成

課題発見・解決力、協働力を持ち、新しい付加価値を生み出す力を、高校卒業後も含め、育成し続ける仕組みづくり

1 全校参加型「コラボレーションラボ」地域連携プロジェクト

- ・地域や産業界の学びの場としてコラボレーションラボを整備し、協働や探究活動を実施【全学】

2 六次産業化プロジェクト

- ・六次産業化ハブを整備し、特産品に新しい価値を見出す商品開発を実施【全学】

3 次世代農業人材育成プロジェクト

- ・スマート農業対応施設を整備し、農家に開放し、技術普及と双方向の学びの実践
- ・大学教員の指導により、技術と農業の価値向上から地域課題解決力を育成【農業】

4 企業とのマシニング共創プロジェクト

- ・地域企業と同じ設備の導入・活用により企業が自社社員に対して行う企業研修(リスキリング)を実施
- ・最先端設備を活用した技術者との対話を協力校生徒も含めて実施【工業】

5 「坂井高校マルシェ」プロジェクト

- ・農業科と商業科の生徒主体で生産した商品を、コンソーシアム企業等の助言を受け付加価値を向上・収益化を図り、通年販売によるビジネス実践【農業・商業】

6 地域発起業家育成プロジェクト

- ・関係機関等と連携し、県内若手起業家による講座や株式会社設立にむけた【全学】
- ・「起業家育成講座」を卒業生も対象に実施
- ・新しい付加価値を見出す力の育成のため学科連携の学校設定科目を実施する。

7 専門教育の魅力発信と次世代育成

- ・「坂井高校キッズニア(プログラミング・職業体験講座)」を実施し、域内の園児や小中学生・保護者に坂井高校の魅力を発信【全学】

◎取組にかかる主な施設・設備整備

①<アドバンス・テクノHUB>【改修】

- 「共創ゾーン」
- ・5軸マシニングセンタ、金属3Dプリンタ、レーザー加工機、運転シミュレータ、粉末塗装装置等を導入し、地域企業と同等の実習環境を構築
- 「マシニングゾーン」
- ・シャシダイナモ等の機械設備の更新と「マシニングゾーン」のファクトリー・オートメーション設備刷新により、次世代製造業に対応



FA設備

②<スマートアグリ&バイオ・HUB>【新設・改修】

- 「環境制御温室」
- ・圃場にAI/ IoTを活用し、温度、日照量、CO₂濃度を自動調整できるデータ駆動型農業の環境を整備。
- 「培養室等」
- ・実験実習により、専門知識を学ぶ環境を整備



環境制御温室

③<六次産業化HUB>【改修・増築】

- 「食品加工実習室」
- ・加工・製造のゾーニングにより、衛生管理手法(HACCP)対応
- 「食品製造実習室」
- ・地域の特産品そばの加工ができるよう整備し、商品開発等を実施



食品製造実習室

④<地域共創HUB>【新設】

- 「プロジェクト推進ルーム」
- ・複数のクラス等が協働で講義・課題研究を実施
- ・こども園との交流やプログラミング教室など多様な活動を実施
- ・地域発イノベーションを目指し、コンソーシアムに参画している地域企業の社員研修(リスキリング)や卒業生の学び直し(リカレント教育)
- ・「課題研究発表会」や「企業説明会」を開催し、地域への学びの共有や協力校生徒へ地域企業との接点を提供
- 「多機能エントランス」
- ・校内で生産・製造した商品を直売する「坂井高校マルシェ」や「生徒朝市」等のビジネス体験を実施
- ・企業展示やデジタルサイネージで地域産業を体感



多機能エントランス

各類型における具体的な取組みⅡ

類型2 敦賀高校 (普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化)

取組1 先導的な理数教育課程の実施

理数の基礎技能の習得や科学的根拠を追求する先進的授業研究、データサイエンス科目の新設を推進

1 理数カリキュラムの充実

- ・電子顕微鏡など機器を用いたミニ探究授業
- ・地学において地域の素材や県立年縞博物館を活かした地質研究や、宇宙産業技術の入口として、天文分野の学習を充実

2 理科の先進的授業研究開発

- ・理科実験を、仮説→検証→実験→分析→発表の過程の中に位置付けた実験として理科の授業に定着
- ・基礎実験は、実験操作ガイド動画の視聴により、授業の効率化を図る。
- ・発表活動、話し合い活動、実験を別々のグループが別々に活動できる複線化した理科授業を全学科で推進

3 データサイエンスの基礎スキル習得

- ・科学的かつ客観的に物事を捉える力を身に付ける「データサイエンス」を新設

取組2 科学分野における女性活躍の推進

科学分野での女性活躍のため科学技術講座の開講やキャリア形成を促進

1 ジェンダーダイバーシティに関する学び

- ・生物学的・社会的な性差の視点を取り入れた科学技術研修講座を実施

2 女性テックリーダーを育成

- ・敦賀市教育委員会と連携して、中学生と高校生を対象に社会的ニーズの高いデジタル分野のスキル習得や、キャリア観の育成を実施

取組3 地域および国際の連携を活かした探究活動

地域産業との連携や国際協定校との共同学習を推進

1 地元大学や企業との連携

- ・半導体技術、宇宙、エネルギー関連企業・大学と連携、メンターとして招聘し、探究活動の深化やキャリアモデル形成を実施

2 国際協働の推進

- ・台湾(国立新営高級中学校)とオンラインで接続した共同課題研究を実施
- ・国外の先進的取組みを学ぶ教員研修を実施

取組4 理系のための高校の入口と出口の特色化

理系分野への進学を見据えた制度の整備と特別講座の開校により促進

1 入試制度の特色化

- ・理数進学科に県内初となる理系人材対象「女子枠」の設置を検討するなど、女子が理系分野を選択しやすい環境を制度面から構築し、中学生へ理系意識を喚起

2 理系の総合型選抜対策講座を実施

- ・連携大学との学術論文執筆の特別講座や塾講座を協力校と実施し、探究活動の成果を大学入試に活用

取組5 科学体験と交流による文理融合を感じるキャリア観育成

科学分野の第一線で活躍する人材やその職種への理解を促進

1 新しい価値を創造できる人材の育成

- ・県内外の研究所、博物館、科学館の訪問や、第一線で活躍する科学者、技術者の講演を開催し、最先端の科学技術を学ぶ機会を創出
- ・研究者や開発者、文系人材へ科学をわかりやすく説明する科学コミュニケーターなどへの職種を理解する機会を創出

取組6 地域ですべての世代が科学に親しみ、裾野が広がる拠点形成

関係者との協働により理系人材育成を促進

1 拠点校を中心に地域が科学に触れる機会を創出

- ・科学イベントを開催するなど市教育委員会、保護者、小中学生、地域住民の科学への理解を促進

取組7 地域の特性を生かしたエネルギー教育の普及・推進

実践的学習を通じて科学的理解と課題解決力を育成し、地域を担う人材の育成とエネルギー教育の普及・推進

1 拠点校を中心に地域が科学に触れる機会を創出

- ・原子力関連施設が集積する地域特性を生かし、県内大学・研究機関・事業者等と連携し、原子力の基礎から安全・防災、エネルギー政策までを体系的に学習
- ・県内外施設での研修・見学を実施し、最先端の知見や多様な現場を体験

◎取組にかかる主な施設・設備整備

①<科学・DX研究センター>【新設】

- 「高度分析・実験室(物理・化学・生物・地学ラボ)」
- ・電子顕微鏡、高速原子間力顕微鏡、水質分析機器など、定量的データを採取する大学研究に近い機器を導入
- 「モノ&デジタルプロダクトエリア」
- ・画像編集、生成AI活用、アプリ開発用のハイスペックPCを配置、3Dプリンタ、レーザー加工機を導入
- 「多目的オープンスペース」
- ・ワークショップ、ポスターセッションが可能となる
- ・壁面ホワイトボードや可動デスク、大型モニターを配備
- 「天文台(地学研究のランドマーク)」
- ・学習活動、天体観察会などに活用する大口望遠鏡を備えた天文台を整備
- ・宇宙産業技術の入口として位置付け



高度分析・実験室



モノ&デジタルプロダクト
エリア

②<先進的な理科実験室>【改修】

- ・既存の実験室では実現できなかったデジタル機材の導入により、データを学習者、利用者がシームレスに活用するデータの収集と共有、効率化
- ・活動人数に応じて分かれることのできるパーテーションと可動型デスクを配備
- ・大型モニター、遠隔通信機器を配置し、複数グループが、国内外と遠隔交流をオンデマンドに活用できる空間を整備



理科実験室

各類型における具体的な取組みⅢ

類型3 鯖江高校 (地理的アクセス・多様な学びの確保)

取組1 ICTと遠隔教育による「県内公立高校での多様な学びの保障」

高校の規模にかかわらず、多彩で充実した学習機会の保障

1 教科・科目充実型遠隔教育の確立と展開

- ・高校の小規模化を想定し、教科「情報」の遠隔授業モデルを検証
- ・将来的には、小規模校でも他教科も含めた多彩な教育課程が維持できる体制を構築
受信側の教員配置、評価方法の統一など学校教育法施行規則に基づく「遠隔授業による単位認定」を活用

2 多目的遠隔実習室による他校との合同学習や大学や地域企業等とのオンライン交流を通した「ボーダーレスな学び」の実現

- ・協力校との合同授業により、双方向の活発なディスカッションを行い、多様な考え方、見方に触れる機会を創出
- ・協力校生徒と探究活動の成果発表や、福祉コースの生徒が協力校福祉系学科生徒と介護実習に関する意見交換を実施
- ・県内大学と産業界等と連携し、大学教員等による講義を実施
- ・福井大学の一部の授業を先取り受講して、大学進学後に大学の正規カリキュラムの単位として認定する制度構築を検討
- ・双方向の合同授業やオンライン交流の校内体制を整備、研究・実践を推進

取組2 「デジタルものづくり人材」の育成と全学横断での探究活動の充実

地域コンソーシアムの構築と地域住民との交流による探究活動を充実

1 地域コンソーシアムの構築と新たな探究学習の展開

- ・企業等その他機関を新たに繋ぐ地域コーディネーターを配置し、既存の地元自治体・企業・大学が一体となったコンソーシアムを再構築
- ・「地域の魅力向上」に関わり続け、生徒の将来の礎となる視点やキャリア形成を図る探究学習を充実
- ・関係機関と連携し、デザインの素養を学ぶ講座を開設し課題解決力の向上、デジタルものづくりを核とした社会実装までを見据えた実践力を向上
- ・ITコースの生徒が鯖江市内の小中学生に対し、プログラミング等を教える機会を設け、地域のITリテラシー底上げと理数系への理解を促進

2 デジタルものづくりを体現する「デジタル・ファブリケーション実習」等を通じたデジタル技術の習得

- ・地元IT企業等の技術者を外部講師に招聘し、3D技術やデータ分析等のデジタル技術を学んで実践的なプロダクト開発を促進し、地域と連携したデジタル人材の育成を図る学校設定科目を開発
- ・3Dモデリングを活用し製品のデザインに取組み、その成果品を「眼鏡フェス」へ展示するなど、デジタル技術による地域産業の高度化につながる課題解決型学習を実施

取組3 地域住民や他校生と関わる「地域共創スペース」を核とした学力向上・学習支援と、オープンな学び

県内大学、地域企業や地域住民など多様な関係者との関りる機会の創出

1 地域企業と連携した共同研究や学校の枠を超えたサークル活動

- ・地域企業と連携した自主的な共同研究や学校の枠を超えて協力校などの高校生とオンラインで繋ぎ、英語力や理数の能力向上、キャリアビジョン形成をする県教育委員会主催のサークル活動を実施

2 地域課題解決に向けたアプリ開発等の推進

- ・地元IT企業と連携した短期プログラミングキャンプを開催し、地域課題の解決に向けたアプリ開発等の実践的な学習に実施
キャンプ後、探究活動として継続的に開発に取り組める支援体制を構築

3 「大学進学サポートセンター」の開設

- ・総合型選抜をはじめ地元大学進学に向けた学習を、地域の教育産業等と連携し実施する県教育委員会主催の「大学進学サポートセンター」を設置

4 県内大学と連携した学習会等の開催

- ・地元大学生・大学院生チューターを招聘し、教え合う環境下での学習質問会や進路相談会など、生徒の自習に対応

◎取組にかかる主な施設・設備整備

①<遠隔教育拠点(配信センター等)>【改修】

- 「配信室」
 - ・高画質・高音質で操作がシンプルな専用の授業配信システムを整備
- 「多目的遠隔実習室」
 - ・双方向での合同授業、地元大学教員の講義に活用する多地点接続オンラインシステム、大型マルチスクリーン等を整備
- 「デジタル・ファブリケーション実習室」
 - ・デジタルものづくりに活用する、高性能PC、3Dプリンタ、レーザーカッター、3DCADソフト等を配備
- 「データサイエンス実習室」
 - ・仮想空間での体験と身体感覚の融合を実現する、高性能PC、モーションキャプチャー、VR・AR機器等を配備

②<地域連携共創拠点>【改修】

- 「地域共創スペース」
 - ・放課後や休日に高校と地域が連携し、地元進学・就職に向けた学力向上・学習支援などに活用する、多地点接続オンラインシステム、大型マルチスクリーン等を設置



配信室



多目的遠隔実習室



DF実習室



地域共創スペース

各類型における教員の資質・能力向上、業務負担軽減

類型1 坂井高校 (専門高校の機能強化・高度化)

◎教師の資質・能力向上方策

- 1 産学官連携による先端技術研修の実施
 - ・連携大学、自治体、坂井高校コンソーシアム企業、業界団体から、宇宙産業関連資材の製作、精密加工、スマート農業、バイオテクノロジー等の最新技術の定期的な指導・研修
- 2 企業先端技術研修への教員派遣の実施
 - ・協力校を含めた専門学科の教員を企業等へ派遣し、現場の技術や安全基準を学び、専門技術力を向上
- 3 教員の指導力等の向上
 - ・産学官連携プロジェクトを通じて、企業と生徒の協働を促進する「ファシリテーター」の教員研修を実施
 - ・生徒の「自己効力感」や「問題発見能力」等を多面的に把握・評価する手法の研修により、指導と評価の一体化による授業改善

◎業務負担軽減方策

外部人材を活用することで、教員の負担を軽減し自己研鑽の時間を確保

- 1 外部人材の登用等による、教育活動の環境整備
 - ・「産業実務家教員」の活用
坂井高校コンソーシアムを中心とした企業等が派遣し、各分野の最先端技術や知識を生徒に指導
 - ・「テクニカル・スタッフ」の活用
坂井高校コンソーシアムを中心とした企業等が派遣し、高度資格の取得に向け生徒・教員を指導
自動化・省人化が進む製造現場に即した環境を整備
 - ・「外部講師」の活用
地元の高等教育機関等が大学教員等を派遣し、専門的見地から生徒を指導や助言
 - ・「伴走コーディネータ」の常駐配置
伴走コーディネーターが校内に常駐し、各事業における大学・行政・協力校との連絡調整、企業へのアポイント等の調整、生徒の探究活動の支援、教員研修等を実施
 - ・事務員の配置
- 2 「人材還流エコシステム」による指導体制の構築
 - ・地元企業に就職し実務経験を持つ人材(卒業生)が技術を後輩(生徒)に指導する体制を構築

類型2 敦賀高校 (普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化)

◎教師の資質・能力向上方策

- 1 データサイエンス・AI活用指導力向上の研修を実施
 - ・地元大学と連携し、協力校含め教員を対象にデータサイエンス研修を実施し、自己活用と生徒活用を指導する両方のスキルを向上
- 2 先進事例の研究研修を実施
 - ・サイエンスリテラシー教育や科学課題解決型授業の実践に取り入れるため、海外、国内の先進的理数教育事例を視察・体験を実施
 - ・海外の事例をSNSやホームページなど活用し、協力校向けに情報発信、共有
- 3 地域拠点としての教員研修
 - ・教員研修の地域拠点として大学等と連携し、高度科学機器の活用研修や研究授業を通じて、協力校を中心に地域全体の理数教員の資質・能力を向上

◎業務負担軽減方策

外部人材を活用することで、教員の負担を軽減し、授業研究や生徒指導に専念できる時間を確保

- 1 外部人材の登用等による、教育活動の環境整備
 - ・「ラボ・アシスタント(LA)」の配置
連携大学から大学院生を派遣し、探究学習サポート、高度実験機器メンテナンス、試薬調整などの業務を実施
 - ・「外部メンター」の活用
キャリアモデルとなる企業研究者や大学生を外部メンターとして、生徒の探究活動の一部を伴走支援
 - ・「大学スタッフ」による機器研修の開催
教員に高度科学機器の操作、活用、メンテナンス研修を実施
 - ・「総合型選抜対策指導のAIや外部講師」の活用
AIツール活用や外部塾講師による、志望理由書作成やポートフォリオ作成などの講座を実施
 - ・「地域連携等コーディネーター」の配置
地域連携等コーディネーターが校内に常駐し、推進組織の運営・調整、企業・大学・研究機関の連携先開拓等を実施
 - ・伴走支援やイベント開催の業務委託
伴走支援や成果の指標設定・調査分析、検証委員会運営や科学講演会やイベント開催の業務委託を実施
 - ・事務員の配置

類型3 鯖江高校 (地理的アクセス・多様な学びの確保)

◎教師の資質・能力向上方策

- 1 情報科遠隔授業プロジェクトチームを立ち上げ
 - ・県教育委員会、県総合教育研究所、県内情報科専任教員等によるプロジェクトチームを立ち上げ、県全体で組織的に支援する体制を構築
 - ・遠隔教育の質の向上を図るため、他県の先進的な学校の視察等を実施
- 2 ICT機器活用研修会を実施
 - ・「デジタル・ファブリケーション実習室」等の整備施設を、普通科・探究科教員も使用できるような事業者と連携した研修を実施。
 - ・「多目的遠隔実習室」は、校内に活用を検討する研究体制を構築
- 3 デザインの素養に関する指導力の向上
 - ・関係機関と連携し、デザインの素養を身に付ける方法の教員研修を実施し、探究活動やIT・デザインコースの授業を改善

◎業務負担軽減方策

- 1 外部人材の登用等による、教育活動の環境整備
 - ・遠隔システムの保守体制の構築
システムのトラブルへの対応、ICT機器のメンテナンス、ICT機器の使用手法の研修等を外部委託し、保守体制を構築
 - ・「地域コーディネーター」の配置
地元自治体・地元企業・地元大学のコンソーシアムの構築や、探究学習の生徒と支援団体をマッチングなどする地域コーディネーターを配置
 - ・「伴走支援の業務委託」の配置
成果の指標設定、調査分析、検証委員会の業務運営、遠隔配信の運用マニュアル作成、本校のコンソーシアムを構築・運営ノウハウをまとめた「地域連携スタートアップガイド」作成等の業務委託を実施
 - ・実習、講座実施の際の外部人材活用
地元のIT企業等の外部人材を講師として招聘し、データサイエンス実習やデザイン講座等を実施
 - ・事務員の配置